

令和7年度

1 年 生

授 業 展 開 計 画

滋賀県立甲西高等学校

目 次

	ページ
1 国 語	
(1) 現代の国語	1
(2) 言語文化	3
2 地歴・公民	
(1) 地理総合	5
(2) 歴史総合	7
3 数 学	
(1) 数学Ⅰ	8
(2) 数学A	11
4 理 科	
(1) 化学基礎	14
(2) 生物基礎	16
5 保健体育	
(1) 体育	20
(2) 保健	22
6 芸 術	
(1) 音楽Ⅰ	24
(2) 美術Ⅰ	26
(3) 書道Ⅰ	28
7 外国語	
(1) 英語コミュニケーションⅠ	30
(2) 論理・表現Ⅰ	32
8 情 報	
(1) 情報Ⅰ	34

令和7年度 国語科

科目名	現代の国語		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	2
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：「現代の国語」（数研出版） 副教材：「入試漢字コア2800 改訂版」（桐原書店）、「現代文解法のテクニック 速読×多読」（啓隆社）、「新国語総合ガイド 六訂版」（啓隆社）、「現代の国語の基礎学習」（尚文出版）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（スピーチ、プレゼンテーション、ディベート等）、ノート、ふりかえりシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末ごとに観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	6	評論「コミュニケーション能力とは何か」【読むこと】・身近な問題について考える態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・例示などの修辞を理解する。 ・粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート
	5						
	6	8	評論『水の東西』【話すこと・聞くこと】物事を比較し、考察する方法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・東西の対比関係を用いて論じる叙述の構成を理解する。 ・東西の水文化に見られる特徴について理解する。 ・東西の文化の違いについて班ごとに調べ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表
	7	6	言語活動「感情暴走社会の由来」【書くこと】ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を要約する中で、筆者の考える、「現代の個人重視の生活意識」の問題点について理解する。 ・他のテーマに関して自身の考えを述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・要約

期	月	時数	学習項目 ・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
2 学 期	9	10	言語活動「命は誰のものなのか」【読むこと】「説得力のある文章」について学ぶ。	・命の自己決定権にまつわる法律に対する筆者の考えについて理解する。 ・「命はその人個人のもの」であるという考えへの賛否について書き、発表する。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・発表
	10	10	評論「動物というメディア」【話すこと・聞くこと】身近な課題とその解決策について検討する。	・段落どうしのつながりを意識しながら読解することを学ぶ。 ・文章が書かれた時代背景を知ることで主題について深く学び、自身の立場でその内容を検討し、グループで具体的な取り組みをまとめ、発表する。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・発表
	11	10	評論「消費を妨げる社会」【書くこと】言葉の定義を意識しながら論述する方法を学ぶ。	・「消費社会」に対する筆者の見方を理解する。 ・消費社会の問題について自身の考えを書く。 ・言葉の定義のされかたについて意識しながら読解することを学ぶ。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・レポート
	12	7	言語活動「無痛化する社会のゆくえ」【書くこと】文章構成を工夫する。	・意見文の要素と構成を理解し、意見文を書くための手順を理解する。 ・グループワークで意見文の評価を行い、意見文の評価観点を理解する。			
3 学 期	1	8	評論「科学コミュニケーション」【読むこと】具体例を用いた説得力のある意見を述べる。	・科学的用語によって説明された文章の内容を的確に捉え、わかりやすく言い換えることを学ぶ。 ・筆者の主張に対する考えを述べる。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・レポート
	2	5	言語活動「資料を分析して考えをまとめる」【書くこと】資料分析とその利用について学ぶ。	・資料の特性に応じた読み取り方を学ぶ。 ・資料を踏まえ、自分の住む地域の再生・活性化案を考え、具体例とともに文章にまとめる。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・発表
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業中や家庭学習の課題には、間違いをおそれずに粘り強く取り組みましょう。言葉は覚えるだけではなく、活用して初めて自分の力となります。授業で学んだ評論の構成や表現上の工夫も、自分の意見文や課題作成に積極的に取り入れましょう。

漢字や語句について意味・語源・間違いやすい所などを意識してしっかり覚えていくようにしましょう。高校生のうちに語彙を豊かにすると、表現の幅が広がります。また、いつでも「手元に読みかけの本を持っている」と言えるように、読書習慣をつけましょう。その時、知らない漢字や語句をすぐに調べる癖をつけると、楽しめる本が増えていきます。

令和7年度 国語科

科目名	言語文化		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	3
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：「言語文化」（数研出版） 副教材：「基礎から学ぶ 解析古典文法 四訂版」（桐原書店）、「読んで見て聞いて覚える重要古文単語 315 四訂版」（桐原書店）、「新国語総合ガイド 六訂版」（啓隆社）、「基礎古文1＋」（尚文出版）、「重要な句法と語彙を学ぶ精選漢文」（尚文出版） ※Sクラスのみ：「言語文化の基礎学習」（尚文出版）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（スピーチ、プレゼンテーション、ディベート等）、ノート、ふりかえりシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	5	・漢文のルールや日本語との違いを学ぶ【読むこと】	・漢文の構造を理解する。 ・訓点を理解する。 ・書き下し文を理解する。 ・再読文字を理解する。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート ・ふりかえりシート
	5	8	・古典文法と現代文法の違いを学ぶ【読むこと】	・五十音図、いろは歌を理解する。 ・歴史的仮名遣いを理解する。 ・言葉の単位（文・文節・単語）と品詞の種類を理解する。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート ・ふりかえりシート
				・『宇治拾遺物語』『児のそら寝』を繰り返し音読し、古文のリズムに慣れる。 ・重要な古文単語を辞書で調べて理解する。 ・動詞を抜き出し、活用の種類、活用形を理解する。 ・古語と現代語の違いを理解する。	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート	・ノート ・ふりかえりシート

	6	9	・古典常識や古典と現代文の違いを学ぶ【読むこと】 ・随筆に親しむ【読むこと】	・『徒然草』『ある人、弓射ることを習ふに』を読み、随筆とは何かを理解する。 ・形容詞、形容動詞の性質を理解し、活用の種類と活用形を理解する。 ・筆者の批判的精神、人間観などを読み取る。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート ・ふりかえりシート
	7	8	・登場人物の言動から心情を読み取る【読むこと】 【書くこと】	・小説「サラバ」を読んで、登場人物の言動から心情を推測する。 ・「サラバ」の意味について考える。 ・交流を通じて、人との考え方の違いを学ぶ。	・ワークシート		・ワークシート
2 学期	9	8	・歌物語に親しむ【読むこと】 【書くこと】	・『伊勢物語』『芥川』を読んで、歌物語の特徴を理解する。 ・和歌の修辞法とその効果を理解する。 ・「芥川」を小説化し、歌物語への理解を深める。 ・古文を読むための基礎となる助動詞について理解する。 ・助動詞の意味、何（形）に接続するか、基本形、活用形などを理解する。	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・鑑賞シート ・定期考査	・ふりかえりシート ・ノート
	10	12	・助動詞の働きについて理解する【読むこと】	・『羅生門』という物語の時代背景を踏まえた上で、下人の置かれている状況、心理上の変化・葛藤など、その推移を文章表現に着目して読み取る。 ・動物を用いた比喻表現から、その効果を読み取る。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・レポート ・定期考査	・ふりかえりシート ・ノート
	11	10	・主題について考える【読むこと】 【書くこと】	・場面の変化(老婆の発見、老婆との接触、老婆の語り)に従って、変化・転換していく下人の心理を読み取る。 ・作品を通して、「倫理観」というものに対する各自の考えをまとめる。 ・題材となった「今昔物語集」と読み比べ、芥川龍之介が工夫した語りの構造を理解する。			
	12	3	・日記文学の特徴や平仮名について理解する【読むこと】	・『土佐物語』『門出』『帰京』の日記文学の特徴を理解する。 ・助動詞の意味を考えながら、現代語訳をする。 ・「なり」「ぬ」「り」などのまぎらわしい助動詞の識別ができる。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・レポート	・ノート ・ふりかえりシート
3 学期	12	3	・漢詩に親しむ【読むこと】	・漢詩の技法を理解し、表現されている「情景」を読み取る。 ・漢詩を味わい、その世界観を表現する成果物を作成する。		・定期考査 ・レポート	・ノート ・ふりかえりシート
	1	15	・漢詩に親しむ【読むこと】	・『列子』『朝三暮四』を読み、漢文のリズムや訓読の仕方を身につける。 ・漢文特有の句法(反語・不可能・限定など)の意味と訓読の型を理解する。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート ・レポート
	2	15	・無常観について考える【読むこと】 【書くこと】	・「朝三暮四」以外の故事成語を調べて発表する。 ・『平家物語』『祇園精舎』『木曾の最期』を読み、和漢混淆文のリズムを味わう。 ・冒頭文を暗唱する。 ・敬語に着目し、会話の主体をつかみながら文章を読みとる。 ・死に直面した人間のありさまを読みとる。	・暗唱テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート	・ノート ・レポート

担当者からのメッセージ（学習方法など）

古典は、予習の欠かせない科目です。必ず、予習を自分の力ですて授業を受けて下さい。難しい文法も、内容を理解するためにあります。1000年以上もの長い間、多くの人々に楽しまれ、残されてきた文章の世界をどうか楽しんでください。そして、我が国の文学が中古から現代にかけて、何に影響を受け、どのような変化を遂げてきたのかを味わってください。

令和7年度 地理歴史科

科目名	地理総合		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	2
学習の目標	<ul style="list-style-type: none">・地図や地理情報システムを用いて、地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる力を身につける。・地理に関わる事象の意味、意義、特色、相互の関連を、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を身につける。・我が国の国土に対する愛情や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重する姿勢を育む。				
使用教材	教科書：高校生の地理総合（帝国書院）、新詳高等地図（帝国書院） 副教材：高校生の地理総合ノート（帝国書院）				
評価	評価法	定期考査・ワークノート・レポート・発表・討論などから総合的に判断して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。・地図や地理情報システムなどを用いてさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などが深まっている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	20	1部 1章 1節 2節	地球儀と地図 地図と地理情報システム	考査	考査	ワークノート
	5		2章 1節 2節	現代世界の国家と領域 地図から見る国内や国家間の結びつき			
	6		2部 1章 序説 1節	生活文化の多様性 世界の地形と人々の生活	考査	考査	ワークノート
	7						

令和7年度 地理歴史科

科目名	歴史総合		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	2
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書：『明解 歴史総合』 帝国書院 副教材：『明解 歴史総合ノート』 帝国書院 『新歴史総合研究ノート』 啓隆社				
評価	評価法	基本的な知識・さまざまな資料を読み取る技能を問うだけにとどまらず、その知識・技能をどう活用するかを適宜レポート等を課し定期考査だけではなく総合的に評価し、あわせて取り組む姿勢・態度も提出課題を通じて評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な歴史用語や資料の読み取り方。大まかな歴史的な流れについて理解する力。	
		b	思考・判断・表現	読み取った資料から、それぞれの史実を位置づけ、因果関係について考え、それらをまとめていく力。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	レポート等の課題に対する取り組み姿勢。課題についてより深く考え、学習をより深化させている姿勢。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4		・歴史の扉	・歴史と私たち			
	5	20	・近代化と私たち	・歴史の特質と資料	考査	レポート考査	レポート考査
	6 7			・近代化への問い ・江戸時代の日本と結びつく世界 ・諸外国における近代化 ・近代化の進展と国民国家形成 ・アジア諸国の動揺と日本の開国 ・近代化が進む日本と東アジア	考査	考査	考査
2学期	8		・国際秩序の変化	・国際秩序の変化や大衆化への問い	考査		
	9		・大衆化と私たち	・第一次世界大戦と日本の対応		考査	考査
	10 11 12	30	・2つの世界大戦	・国際協調と大衆社会の広がり ・日本の行方と第二次世界大戦 ・再出発する世界と日本	考査	レポート考査	レポート考査
3学期	1		グローバル化と私たち	・グローバル化への問い			
	2	20	・グローバル化	・冷戦で揺れる世界と日本		レポート	レポート
	3		・現代社会の諸課題 世界・日本	・多極化する世界 ・グローバル化の中の世界と日本	考査	考査	考査

担当者からのメッセージ（学習方法など）

歴史の勉強は無味乾燥な歴史用語をひたすら暗記するものではありません。歴史とは過去のできごとですが、歴史は今を考える手がかりです。現代社会の諸課題について、「なぜ？なんで？」を大切に、歴史的な理解を進めましょう。学習の目標でも示したとおりキーワードは「歴史で考える」です。「なるほどそうか！」と思えた時が学習の成果があった時です。

令和7年度 数学科

科目名	数学Ⅰ		学年	類型・コース	単位数
			1 年	全員	3
学習の目標	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を身につける。				
使用教材	教科書：新編 数学Ⅰ (数研出版) 副教材：基本と演習テーマ 数学Ⅰ + A (数研出版) フォーカスゴールドスマート 数学Ⅰ + A (啓林館)				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，事象を的確に表現し，関数関係に着目してその特徴を表や式，グラフと相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し，観点別学習状況の評価（A、B、C の 3 段階）および評定（1 ～ 5 の 5 段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4 月	6	第 1 章 数と式	第 1 節 式の計算 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解	確認 テスト		振 り 返 り シート
	5 月	10		第 2 節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 式を、目的に応じて 1 つの文字に着目して整理したり、1 つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。	中 間 考査	中 間 考査	ワーク

2 学 期	6	10		第3節 1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式	確認 テスト		振 返 り シ ー ト
	7	4		不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、 不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具 体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする 力を培う。	期 末 考 査	期 末 考 査	ワ ー ク
			第2章 集合と命題	1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・対偶・裏 4. 命題と証明 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察 に活用できるようにする。	確 認 テ ス ト		振 返 り シ ー ト
	9	12	第1章 数と式 第2章 集合と命題	1学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課 題 考 査	課 題 考 査	夏 休 み 課 題
	10	12	第3章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次 関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報 機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。	確 認 テ ス ト	中 間 考 査	振 返 り シ ー ト
	11	12	第3章 2次関数	第3節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係につ いて理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求め られるようにする。	確 認 テ ス ト	期 末 考 査	振 返 り シ ー ト

	12	9	第5章 データの分析	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、 手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、 批判的に考察したりする力などを養う。	確認 テスト	レポ ート	振 返 り シ ー ト ワ ー ク
	1	10	第3章 2次関数 第5章 データの分析	2学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課 題 考 査	課 題 考 査	冬 休 み 課 題
3 学 期	2	20	第4章 図形と計量	第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 課題学習	確 認 テ ス ト		振 返 り シ ー ト
	3				期 末 考 査	期 末 考 査	ワ ー ク
						レポ ート	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学Ⅰでは、これから学ぶ数学の基礎となる分野を学んでいきます。授業では、単に解き方を覚えるのではなく、考える時間を大切にしてください。授業での学習活動の取り組み状況も評価します。授業で学んだその日のうちにワーク（完成ノート）で復習を行い、公式の基本的な使い方を身に付けて次の授業に臨んでください。余裕のある人は自主的に参考書の問題に取り組み、応用力を身に付けましょう。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞くなどしたりして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和7年度 数学科

科目名	数学A		学年	類型・コース	単位数
			1 年	全員	2
学習の目標	図形の性質，場合の数と確率について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を身につける。				
使用教材	教科書：新編 数学A (数研出版) 副教材：基本と演習テーマ 数学Ⅰ＋A (数研出版) フォーカスゴールドスマート 数学Ⅰ＋A (啓林館)				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を身につけている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につけるようにする。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	4	第1章 場合の数と確率	第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数	確認テスト		振り返りシート
	5	8			中間考査	中間考査	ワーク
				3. 順列 4. 組合せ 場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	確認テスト		振り返りシート ワーク
	6	8		第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質	期末考査	期末考査	

	7			7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率 9. 期待値 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	確認 テスト		振 返 り シ ー ト ワーク
2 学 期	9		第1章 場合の数と 確率	1学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課 題 考 査	課 題 考 査	夏 休 み 課 題
	10	14	第2章 図形の性質	第1節 平面図形 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理	確 認 テ ス ト 中 間 考 査	中 間 考 査	振 返 り シ ー ト ワーク
		12		4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図 平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	確 認 テ ス ト 期 末 考 査	期 末 考 査	振 返 り シ ー ト ワーク
	12	4		第2節 空間図形 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体	確 認 テ ス ト	レ ポ ー ト	振 返 り シ ー ト ワーク
3 学 期	1		第2章 図形の性質	2学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課 題 考 査	課 題 考 査	冬 休 み 課 題
	2	10	第3章 数学と人間の活動	1. 約数と倍数 2. 素数と素因数分解 3. 最大公約数・最小公倍数 4. 整数の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1次不定方程式 7. 記数法 8. 座標の考え方 9. ゲーム・パズルの中の数学	確 認 テ ス ト 期 末 考 査	期 末 考 査	振 返 り シ ー ト ワーク
	3	10		さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う		レ ポ ー ト	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学Aでは、「場合の数と確率」「図形の性質」「数学と人間の活動」について学習します。授業では、単に解き方を覚えるのではなく、考える時間を大切にしてください。授業での学習活動の取り組み状況も評価します。授業で学んだその日のうちに復習を行い、公式の基本的な使い方を身に付けて次の授業に臨んでください。余裕のある人は自主的に参考書の問題に取り組み、応用力を身に付けましょう。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞くなどしたりして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和7年度 理科

科目名	化学基礎		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	2
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
使用教材	教科書：東京書籍「化学基礎」 副教材：東京書籍「ニューステップアップ 化学基礎」				
評価	評価法	定期考査、小テスト（適宜）、パフォーマンス課題、ノート、振り返りシート等を用いて総合的に評価をする。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常生活や社会との関わりを図りながら物質とその変化についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	6	第1編 化学と人間生活 第1章 化学とは何か 第2章 物質の成分と構成元素 1. 物質の成分 2. 物質の構成元素 3. 物質の三態	物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	5	8	第2編 物質の構成 第1章 原子の構造と元素の周期表 1. 原子の構造 2. 電子配置 3. 元素の周期表	原子の構造、とりわけ電子配置と原子の性質との関係を学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	6	6	第2章 化学結合 1. イオンとイオン結合 2. 共有結合と分子	原子の電子配置と関係が深い3種の化学結合について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題

2 学 期	9	8	3. 金属結合と金属 4. 化学結合と物質の分類	原子や分子の質量の相対質量による表し方，物質を粒子の数で表す「物質質量」とその単位 mol，化学変化における物質の量的関係を表す方法などについて学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題 パフォーマンス課題	振り返りシート レポート課題 パフォーマンス
	10	8	第3部 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応の表し方 5. 化学反応式の表す量的関係				
	11	8					
	12	6	第2章 酸と塩基 1. 酸と塩基 2. 水素イオン濃度と pH				
3 学 期	1	6	3. 中和反応と塩 4. 中和滴定	代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みや利用例について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題 パフォーマンス課題	振り返りシート レポート課題 パフォーマンス
	2	8	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤				
	3	6	3. 金属の酸化還元反応 4. 酸化還元反応の応用				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「化学」は目には見えない小さな粒子達がどのように振る舞うのかを追いかけて、私たちの便利で豊かな生活を支えています。そんな「化学」を学習する上において以下のことを意識しましょう。

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
- 4 化学式など必要な知識は確実に押さえること。
- 5 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に対し、「なぜ?」「どうして?」の視点を持ち、自分の言葉で説明しようと努力すること。

令和7年度 理科

科目名	生物基礎		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	2
学習の目標	・日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
使用教材	教科書：高等学校 生物基礎（第一学習社） 副教材：新コンセプトノート生物基礎（浜島書店）、改訂版 フォトサイエンス生物図録（数研出版）				
評価	評価	定期考査、小テスト（定期的）、パフォーマンス評価（実験レポート等）、振り返りシート等で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生物の特徴について，生物の共通性と多様性の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	生物の共通性と多様性について，問題を見いだし見通しをもって観察，実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	生物の共通性と多様性に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	6	1章 生物の特徴 1. 生物の共通性 ①生物の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上にすむ生物の種数が膨大であることに気づき，地球上に多様な種がみられるのはなぜか考える。 ・生物のもつ基本的な特徴を理解する。 	中間考査	中間考査	
			②生物の共通性の由来	<ul style="list-style-type: none"> ・共通祖先から由来した生物は共通の特徴をもつことを理解する。 ・真核細胞と原核細胞の構造を学習し，細胞の共通性と違いについて理解する。 	小テスト	小テスト	
	5月	6	実験1) 光学顕微鏡の操作法と原形質流動の観察	<ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡の操作やスケッチの仕方を理解する。 	中間考査		実験レポート
			2. 生物とエネルギー ①生物とエネルギー ②代謝とATP	<ul style="list-style-type: none"> ・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。 ・ATP が呼吸や光合成など生体内で，エネルギーの受け渡しに必ず関係していることを理解する。 ・同化や異化の代謝の過程で，生じるエネルギーの受け渡し 	中間考査 小テスト	中間考査 小テスト	振り返りシート

	6月		③代謝と酵素	<p>しに ATP が利用されていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 酵素の基本的な特徴を理解する。 ・ 酵素の触媒作用と働く条件を理解する。 	中間 考查		ト
		8	<p>第 2 章 遺伝子とその働き</p> <p>1. 遺伝子の本体と構造</p> <p>①遺伝情報と DNA</p> <p>演習 1 DNA の分子モデルを作製してみよう</p> <p>②DNA の複製と分配</p> <p>実験 2) 体細胞分裂の観察</p> <p>2. 遺伝情報とタンパク質</p> <p>①遺伝情報とタンパク質</p> <p>資料 6 DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列の関係を考えよう</p> <p>②転写と翻訳</p> <p>③遺伝子とゲノム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝子と DNA と染色体の関係について理解する。 ・ DNA の二重らせん構造の特徴を理解する。 <p>DNA 分子の特徴をもとに DNA の分子モデルを作製することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 塩基の相補性により DNA が正確に複製されることを理解する。 ・ 細胞周期の概要を理解する。 ・ 体細胞分裂を観察することにより細胞周期を理解する。 ・ 生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとしてさまざまな働きをしていることを理解する。 ・ タンパク質は、多数のアミノ酸が鎖状につながってできたものであることを理解する。 ・ DNA の塩基配列と、その配列で決定されるアミノ酸配列を示した資料から、この 2 つの配列の関係について考察し、3 つの塩基の並び（コドン）が 1 つのアミノ酸に対応していることを理解する。 ・ DNA の塩基配列が mRNA の塩基配列に写し取られ（転写）、これがアミノ酸配列に置き換えられる（翻訳）という流れを理解する。 	<p>期末 考查</p> <p>期末 考查</p> <p>期末 考查</p> <p>期末 考查</p> <p>小テ スト</p>	<p>期末 考查</p> <p>期末 考查</p> <p>期末 考查</p>	<p>実験 レポ ート 振り 返り シー ト</p>
	7月						
2 学期	9月	8	<p>第 3 章 ヒトのからだの調節</p> <p>1. 情報の伝達と体内環境の維持</p> <p>①恒常性と神経系</p> <p>実験 3 踏み台昇降運動を行って、心拍数の変化を測定しよう</p> <p>②恒常性と内分泌</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ・ 運動前後の心拍数の変化を測定する実験から、からだには体内環境の変化を情報として伝達するしくみがあることを見だし、体内における情報の伝達の概要を理解する。 ・ 自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 ・ 内分泌系による体内環境の調節の特徴について 	<p>中間 考查</p> <p>中間 考查</p>	<p>中間 考查</p> <p>中間 考查</p>	<p>実験 レポ ート</p>

3 学 期	1 0 月	8	系 ③体内環境を調節するしくみ ④血液凝固	理解する。 ・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見だして理解する ・ 糖尿病の原因と症状について理解する。また、糖尿病で尿中にグルコースが排出される原因を理解する。 ・ 体温調節のしくみについて理解する。 ・血液凝固のしくみと体内環境の維持との関係について理解する。			
		8	2. 免疫 ①生体防御 資料9 白血球の働きについて考えよう ②自然免疫	・ 皮膚や粘膜による生体防御について理解する。 ・ 好中球の存在下における細菌数の減少を示した資料や、好中球が細菌を取り込むようすを撮影した資料から、白血球が体内でどのような働きをしているかに気づき、白血球の役割について理解を深める。 ・ 免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。 自然免疫のしくみを理解する	中間 考 査 期 末 考 査	中間 考 査	振り 返 り シ ー ト
			③獲得免疫 ④自然免疫と獲得免疫の特徴	・ 抗体の特徴について理解する。 ・ 獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 ・ 自然免疫と獲得免疫の特徴を理解し、お互いに活性化し合って病原体を排除することを理解する	期 末 考 査	期 末 考 査	振り 返 り シ ー ト
	1 1 月	8					
	1 2 月	6	⑤免疫と生活	・ アレルギーや自己免疫疾患、エイズなど身近な免疫に関する ・ 患の生じるしくみを理解する。 免疫のしくみを用いている予防接種や血清療法のしくみを理解する。また、近年では抗体医薬が用いられていることを理解する。	期 末 考 査	期 末 考 査	振り 返 り シ ー ト
	1 月	6	第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移 ①植生と環境の関わり	・ 環境要因と環境形成作用の関係について理解する。 ・ 生物的環境と非生物的環境の違いについて理解する。 ・ 森林の階層構造と光環境の関係について理解する。 ・ 環境要因としての土壌の構造や成り立ちについて理解する。 ・ 野洲川や琵琶湖の水質調査をし、身近な例から環境保全を考える。	学 年 末 考 査	学 年 末 考 査	
2 月	8	8	②遷移のしくみ	・ 植生の遷移についてモデル的な過程に基づいて理解する。 ・ 極相林でも起きる植生の変化について、ギャップに着目して理解する。 ・ 二次遷移について、一次遷移との違いに注目して理解する。	小 テ ス ト		振り 返 り シ ー ト
			2. バイオーム ①遷移とバイオーム	・ 環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを理解する。 ・ 世界のバイオームについて、気候や構成する生物種を知る。 ・ 日本のバイオームについて、遷移と関連づけて理解する。	学 年 末 考 査	学 年 末 考 査	
		6	第5章 生態系と				

	3 月		その保全 ①生態系の成り立ち ②生態系における生物どうしの関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系の構成について理解する。 ・食物網について理解する。 ・キーストーン種について理解する。 ・種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを理解する。 ・絶滅について理解する。 	学年 末考 査	学年 末考 査	振り 返り シー ト
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
<p>授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考査勉強は問題集を利用して行いましょう。基本的な知識を覚えるだけでは対応できないので、「なぜそうなるのか?」「仕組みはどうなっているのか?」ということを理解しましょう。</p>							

令和7年度 保健体育科

科目名	体育		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	2
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習 過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
使用教材	教科書 現代高等保健体育（大修館書店） その他 振り返りプリント、各種目の用具				
評価	評価法	スキルテスト、観察、振り返りシート、小テスト、運動の計画、発表			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって、運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	8	体づくり運動	手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うこと。 実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。	運動の計画、発表	観察	振り返りシート
	5	12	【選択Ⅰ】 剣道 サッカー ソフトボール バスケットボール	【選択種目】 ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるようチームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。	運動の計画、発表		振り返りシート
	6				スキルテスト		
	7						

2 学 期	9	6	体育理論	<p>(ア) スポーツは、人類の歴史とともに始まり、その理念が時代に応じて多様に変容してきていること。また、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあること。</p> <p>(イ) 現代のスポーツは、オリンピックやパラリンピック等の国際大会を通して、国際親善や世界平和に大きな役割を果たし、共生社会の実現にも寄与していること。また、ドーピングは、フェアプレイの精神に反するなど、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせること。</p> <p>(ウ) 現代のスポーツは、経済的な波及効果があり、スポーツ産業が経済の中で大きな影響を及ぼしていること。また、スポーツの経済的な波及効果が高まるにつれ、スポーツの高潔さなどが一層求められること。</p> <p>(エ) スポーツを行う際は、スポーツが環境や社会にもたらす影響を考慮し、多様性への理解や持続可能な社会の実現に寄与する責任ある行動が求められること。</p>	小テスト	観察	振り返りシート
	10						
	11	12	【選択Ⅱ】 剣道 テニス 卓球 バドミントン	<p>【選択種目】</p> <p>・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるようチームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。</p>	運動の計画、発表 スキルテスト	観察	振り返りシート
	12	12	【選択Ⅲ】 剣道 テニス 卓球 バレーボール	<p>【選択種目】</p> <p>・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるようチームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。</p>	運動の計画、発表 スキルテスト	観察	振り返りシート
3 学 期	1	20	【選択Ⅳ】 ・陸上競技 ・ダンス	<p>【選択種目】</p> <p>・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるようチームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。</p>	スキルテスト	観察	振り返りシート
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- 自らの体に関心を持って、毎日健康に過ごすためにはどのような運動習慣を身につけるのがよいのかを学んでいきましょう。
- 生活習慣を整えて毎日を過ごす。（食事、睡眠など）
- よい意志決定行動選択ができるようになりましょう。
- 授業などで学んだことを実践しましょう。

令和7年度 保健体育科

科目名	保 健		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	1
学習の目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくために資質・能力を育成する。				
使 用 教 材	教科書：「現代高等保健体育」（大修館書店） 副教材：「現代高等保健体育ノート」（大修館書店）				
評 価	評価法	各学期の期末考査（知識・技能部分 a 思考・判断・表現部分 b）、授業のプリントや板書ノート c、レポート bc、現代保健ノート ab、振り返りシート c、実習の観察 c 等を参考に総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけることができる。	
		b	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単 元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	6	【1 単元 現代社会と健康】 1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復	・健康の考え方やその保持増進の方法は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきており、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択が重要となっていることや、わが国や世界では、様々な保健活動が行われていることを理解する。 ・がんの種類、リスク要因やリスクを軽減する要因などを具体的に理解する。また、がんの治療法や社会的対策について理解する。	現 代 保 健 ノ ー ト 小 テ ス ト	現 代 保 健 ノ ー ト	板 書 ノ ー ト 振 り 返 り シ ー ト
	5						
	6						
	7	4	【2 単元 安全な社会生活】 4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法（心肺蘇生法実習）	・心配蘇生法などの応急手当を行うことが重要であること。また、応急手当には正しい手順や方法があることを理解する。ダミー人形を使った実習を行いより実践的な学習を行う。	期 末 考 査	期 末 考 査	実 習 の 観 察

2 学 期	9	15	【1 単元 現代社会と健康】 6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康 12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復	・健康を保持増進するとともに、生活習慣病を予防するためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践及び、喫煙、飲酒に関する適切な意思決定や行動選択が必要であることを理解する。 ・薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えることを理解する。 ・感染症の種類、症状や感染経路など、その予防対策や個人と社会の対策についての理解を深める。また、性感染症の特徴や予防と対策についても理解を深める。	現代 保 健 ノ ー ト	レポ ー ト	板書 ノ ー ト
	10				小 テ ス ト	現代 保 健 ノ ー ト	振り 返 り シ ー ト
	11				期 末 考 査		
	12						
3 学 期	1	4	【1 単元 現代社会と健康】 15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり 【2 単元 安全な社会生活】 1. 事故の現状と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全	・感染症の種類、症状や感染経路など、その予防対策や個人と社会の対策についての理解を深める。また、性感染症の特徴や予防と対策についても理解を深める。 ・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度及び交通環境の整備が重要であること。また、交通事故には責任や補償問題が生じることを理解する。	現代 保 健 ノ ー ト	現代 保 健 ノ ー ト	板書 ノ ー ト
	2				小 テ ス ト		振り 返 り シ ー ト
	3				期 末 考 査		

担当者からのメッセージ（学習方法など）

保健の授業は、あなたたちの現在から長い将来につながる人生を健康に生きるためにとても重要な科目です。現代の日本が抱える健康課題についての知識を増やし、考えを深めることができるように期待しています。ここから学んだことを、自分の人生で実践し、健康な人生を歩む基礎にしてください。

令和7年度 芸術科

科目名	音楽Ⅰ		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	2
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書：MOUSA1（教育芸術社） 副教材：学習プリント（自作のもの）				
評価	評価法	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評点（1～5の5段階）にまとめます。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関り及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	
		b	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・題材	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	常時活動				学習プリント	学習プリント	学習プリント観察
	4	2	○ソルフェージュ、楽典 ○オリエンテーション	・楽譜の正しい読み方や、書き方を身に付け、表現に生かすようにする。 ・音楽について考えを深め、学ぶ意義や必要性を考える。 ・授業の進め方や評価方法について理解する。			
		4	○校歌を歌おう	・校歌を覚えるとともに、歌詞の内容や音楽的特徴を理解し、歌唱する。	学習プリント 実技テスト	学習プリント 実技テスト	学習プリント 観察
	5	4	○さまざまな発声にチャレンジ（花、翼をください他）	・曲種に応じたさまざまな発声の方法について学び、それぞれの曲を歌う。 ・身近な曲の歌唱を通して、正しい発声方法や呼吸法を身に付けながら歌唱する。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	6	6	○リズムアンサンブルに親しむ	・音符や休符について理解し、創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージを持って創作表現を創意工夫する。 ・リズムの組み合わせや、音の重なりに関心を持ち、主体的、協働的に創作の学習活動に取り組む。	学習プリント 実技テスト	学習プリント 実技テスト	学習プリント 観察
	7	4	○日本の伝統音楽の鑑賞	・歌舞伎の鑑賞や楽曲の歌唱を通して、日本の伝統について理解し特徴を学ぶ。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察

2 学 期	9 ・ 10	4 6	○西洋音楽史を学ぼう ○ウクレレをマスターしよう	・古代ギリシャ～ロマン派までの音楽史について学び、楽曲を鑑賞する。 ・ウクレレの正しい奏法を身に付け、曲を演奏する。	学習プリント 学習プリント 聴取	学習プリント 学習プリント 聴取	学習プリント 観察 学習プリント 観察
	11	8	○外国語歌曲を歌おう (Caro mio ben、Heidenröslein)	・外国語の言葉の特性と旋律、リズム、曲の構成などとの関わりについて理解する。 ・言葉の抑揚や言語の持つ質感を捉えながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。	学習プリント 実技テスト	学習プリント 実技テスト	学習プリント 観察
	12	6	○リコーダーアンサンブルの楽しみ (天国と地獄・C-a-f-f-e-e-他)	・リコーダーの正しい奏法を身に付け、曲を演奏する。 ・カノンや二重奏でアンサンブルをする。	学習プリント 実技テスト	学習プリント 実技テスト	学習プリント 観察
		6	○オペラに親しむ オペラ＜カルメン	・G. ビゼーについて学び、楽曲を鑑賞する。 ・物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情を理解し、曲にふさわしい表現を工夫して歌う	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
3 学 期	1	6	○日本歌曲を味わう (この道、むこうむこう、小さな空、待ちぼうけ など)	・旋律と言葉のイントネーションの関係を理解する。 ・歌詞の内容や曲の美しさを感じながら、表現を工夫して歌う。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	2	6	○創作表現を探索しよう	・旋律に音を加えたり、リズムや拍子などを変えたりした例を参考にして、変奏する。 ・旋律にハーモニーとベースのパートを加えて編曲する。	学習プリント 発表	学習プリント 発表	学習プリント 観察
	3	8	○声部の関りを味わって合唱する	・他者との調和を意識して声部のバランスや、ハーモニーの美しさに留意してアンサンブルの良さを味わう。 ・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、自己のイメージを持って創意工夫して合唱する。	学習プリント 発表	学習プリント 発表	学習プリント 観察

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・演奏の授業では、歌唱・器楽の分野で、バラエティーに富んだ音楽体験ができるようになっています。さまざまなジャンルに挑戦して、音楽を一生楽しめるような技能を身に付けましょう。
- ・創作の授業では、自分でつくった作品を発表したり、作品について意見を交換したりする機会を設けています。音楽を通してプレゼンテーションの力を身に付けましょう。
- ・鑑賞の授業ではなく、聴くだけでなく音楽の構造や文化的・歴史的背景などについても学びます。音楽的な見方・考え方を身に付けましょう。

令和7年度 芸術科

科目名	美術Ⅰ		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	2
学習の目標	美術の幅広い活動を知り、各領域（絵画・デザイン・彫刻・工芸・メディア表現）の内、特に絵画・デザインの知識・技術を身につける。				
使用教材	教科書：美術1（光村図書） 副教材：学習プリント（自作または他の教材から引用）				
評価	評価法	制作作品の課題進捗状況、学習の取り組み状況（観察力や発表力）、学習プリントの記入状況を総合的に判断して決定します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	対象や事象を捉える観点を大切にしているか。また、表現に必要な創意工夫をしているか。	
		b	思考・判断・表現	領域のテーマ性を大事にし、自身が覚えた感動を鑑賞者に伝える工夫をし、表現しようとしているか。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	美術文化の意義を理解し、自身が表現することに喜びを感じて取り組んでいるか。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・題材	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方や評価について理解する。 美術の領域を理解する。 デッサンの基礎知識を学ぶ 	教科書	プリント	観察
	5・6	6	絵画① 絵画の基礎を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 絵画の領域を理解する。 絵画の基礎知識を学ぶ 遠近法を学ぶ（どうしたら立体的に絵が描けるかを実習で体験する。） 色彩を学ぶ 	教科書 実習		観察 観察
		10	絵画② 広い風景を描こう	<ul style="list-style-type: none"> ①で学んだことを応用して実際の風景を描く。 実感できたことを実践して自身のスキルにしている。 	教科書	プリント	観察
	7	2	合評	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品を鑑賞し、意見・感想を述べ合い、今後の参考になるようにする。 	実習		観察
					観察	発表	プリント

2 学 期	9	2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期のおさらい。 ・絵画とデッサンとの関わりを学ぶ。 	教科書	プリント	観察
	10	26	絵画③ 静物を描く	<ul style="list-style-type: none"> ・空間を出すという考え方を身につける。 ・絵画①で学んだどうしたら立体的に絵が描けるかを 実習で体験する。 ・光と影の考え方彩を学ぶ 	実習	プリント	観察 観察
	11					プリント	観察
	12	2	合評	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの作品を鑑賞し、意見・感想を述べ合い、今後の参考になるようにする。 	観察	発表	観察 プリント
3 学 期	1	2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの基礎知識を学ぶ ・デザインが社会に果たす役割を理解する。 	教科書	プリント	観察
		8	色彩を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画でもふれたが、色彩とムードを醸し出す色の組み合わせの方法など学び直す。 	教科書	プリント	観察
	2	8	ポスター制作	<ul style="list-style-type: none"> ・色自体が持つ「強さ・穏やかさ・さわやかさ・優しさ・暖かさ・涼しさ」などを理解し、テーマを表現する。 	実習		観察
	3	2	合評 1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの作品を鑑賞し、意見・感想を述べ合い、今後の参考になるようにする。 ・この1年で、自分なりに気がついたことや、身についたと思われるスキルや考え方をまとめる。 		発表 プリント	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・なんでもそうですが、勉強するというのは、コツがわかれば楽しいものです。美術も「そうなのか、そうだったのか。」が理解できれば、どんどん上手になるし、スキルも身についていきます。そう思って取り組んでください。
- ・評価は結果として出来上がった作品の善し悪しだけでつけるものではありません。そこに到るまでの過程が大切です。どれだけ向き合ったか、自身の思いを表現しようとしたか、また工夫しようとしたかが大切です。そこから、「感想や思いを伝える力」（コミュニケーション力）や「他者の作品を観る力」（人に対する思いやり）なども生まれます。そういうものを総合的に判断しています。
- ・わからないことはわかった顔をせず、また遠慮せずにどんどん質問しましょう。

令和7年度 芸術科

科目名	書道 I	学年	類型・コース	単位数
		1	全員	2
学習の 目 標	(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。			
使 用 教 材	教科書：光村図書「書 I」 副教材：自作プリント			
評 価	評価法	作品・作品意図カード・振り返りシートを観点別に評価する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
		b	思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	2	オリエンテーション	・書写と書道の違いについて学ぶ ・表現とは何かについて知る			
	5	6	漢字の学習① 行書の学習 I	・「蘭亭序」（王羲之）臨書 半紙1字「天」 ①筆の抑揚を習得する ②筆脈とは何かを知る	作品		
		4	漢字の学習① 行書の学習 II	・「行草詩巻」（王鐸）臨書 半切 1/3「百感」 ①筆先の折り返りを意識する	作品		
	6	4	創作① 線で表現①	・「楽」「悲」など、漢字の意味を連想させるような線質を研究する。 ・墨量・筆速・筆圧による先質の違いを知る		作品	プリント
	7	4	線で表現②	・新しい漢字を創る 現存しない漢字を創り、その意味が伝わるように表現する。		作品	プリント

2 学期	9	2	創作② 漢字かな交じりの書の学習Ⅰ	・大字1字書 ①線質とイメージの関わりを知る どっしり粘り強い線 切るような鋭い線 軽快な線 ②字形の変化と余白 ③大事1字書創作（全紙） 好きな漢字を書く		作品	プ リ ント
	10	2 4					
2 学期	11	2 4 4		・漢字かな交じりの書 ①運筆のリズムと作品の変化を感じる ②余白と構成の関係を知る ③好きな言葉を①②を生かして書く 半切 1/4 ④パネルに仕立てる ⑤鑑賞会「私の好きなこの作品」	作品	作品	プ リ ント
	12	4	篆刻	・氏名印を彫る		作品	
		3	創作③ 漢字かな交じりの書の学習Ⅱ	・漢字かな交じり+大字作品（全紙） ①大字1字書 構成を考え、全紙 1/2～1/3 程度に大字1字書をする。		作品	プ リ ント
3 学期	1	5 4	漢字かな交じりの書の学習Ⅲ（仮名の学習）	②仮名の表現で平仮名を学ぶ ①の余白に小字書きを入れる ③押印をする ④鑑賞会「私の好きなこの作品」		作品	プ リ ント
	2	5	漢字の書② 楷書の書	・書風と筆法 唐の4大家の書風の違いを知る ①「九成宮醴泉銘」（欧陽詢）から学ぶ 半紙1字臨書 ・線質 ・結構（背勢）	作品		
		4		②「建中告身帖」（顔真卿）から学ぶ 半紙1字臨書 ・線質（基本線の筆法） ・結構（向勢）	作品		
	3	2		③ ①②の書風を生かした創作 色紙1字書		作品	プ リ ント

担当者からのメッセージ（学習方法など）

芸術科書道は、整った文字の美しさだけを追求する授業ではありません。幅広い表現活動としての「書」を味わい、書をとおして「自分らしい表現」が出来るようになることが目標です。基礎的な知識や技能を習得し、今伝えたい思いを表現できるようになりましょう。

令和7年度 外国語科

科目名	英語コミュニケーションⅠ		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	3
学習の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの5つの能力を養う。				
使用教材	教科書：「BIG DIPPER English CommunicationⅠ」（数研出版） 副教材：「BIG DIPPER English CommunicationⅠ ベーシックノート」（数研出版） 「BIG DIPPER English CommunicationⅠ ワークブック」（数研出版）				
評価	評価法	課題考査・定期考査、実技テスト、小テスト、授業課題・提出物、授業態度等を総合して評価します。1学期、2学期、3学期の成績を総合的に判断して、年間の学習成績とします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	英語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きについての知識を深め、その知識を土台に、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	知識および技能を活用して課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることにむけた粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	9	Lesson 1 Have a Good Day with a Good Breakfast	現在形、過去形、未来を表す表現、現在完了、現在進行形、命令文の用法を理解する。朝食の大切さ、理想的な朝食、朝食の作り方のレシピについて理解し、自分の考えを理由とともに言ったり書いたりする。	中間考査スピーチ発表	中間考査スピーチ発表	振り返りシートスピーチ発表
	5	10	Lesson 2 A Mascot with a Mission	文型(SVC, SVO)、動名詞、不定詞の用法を理解する。町おこしのキャラクターの役割について理解し、自分の考えを理由とともに言う。絵を見てそこに描かれている状況を書く。	中間考査小テスト	中間考査小テスト	振り返りシート
	6	10	Lesson 3 Two Kinds of Leadership	受動態、文型(SVOO, SVOC, SVO)、関係代名詞の用法を理解する。サルとゴリラから見える2つのタイプのリーダーシップについて理解し、チェックリストで自分のリーダーとしての適性をチェックする。それについての自分の考えを理由とともに言う。リーダーになったらやりたいことについて理由を書く。	期末考査小テスト	期末考査小テスト	振り返りシート
	7	9	Lesson 4 Older Sports and Newer Sports	比較（最上級、比較級、原級）の用法を理解する。新旧いろいろなスポーツの歴史と魅力、本文中のブログの内容を理解し、自分の考えを理由とともに言う。e スポーツがスポーツかどうかについて理由を示して自分の考えを書く。	期末考査小テスト	期末考査小テスト	振り返りシート
	8		1学期の復習 夏休みの課題		課題考査	課題考査	課題

2 学 期	9	10	Lesson 5 AI Meets the Arts	名詞を修飾する分詞、形式主語の用法を理解する。AI（人工知能）による芸術や本文中のインタビューを理解し、自分の考えを理由とともに言う。幸せを感じる方法について、理由を示して自分の考えを書く。	中間 考査 スピー キング テスト	中間 考査 スピー キング テスト	振り 返り シート スピー キング テスト
	10	10	Lesson 6 What Is Happiness?	過去完了、関係副詞(when, where)の用法を理解する。世界の人々の「幸福度」の違い、ドミニカの人々の意見について理解し、話し合い、自分の考えを理由とともに言う。幸せを感じる方法について自分の考えを書く。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート
	11	10	Lesson 7 The Maldives: A Dream Destination?	知覚動詞 SVOC(=現在分詞、原形)、使役動詞 SVOC(=原形)、SVO+to 不定詞の用法を理解する。人気の観光地モルディブが抱える問題、日本の観光地が抱える問題が書かれた新聞記事を理解し、話し合い、自分の考えを理由とともに言う。観光公害の解決法を書く。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート
	12	9	Lesson 8 Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream 冬休みの課題	関係副詞(how, why)、関係代名詞(what)、強調構文の用法を学ぶ。 世界的な特殊メイクアップアーティスト Kazu Hiro さんがどのように夢を叶えたのか理解し、話し合い、自分の考えを理由とともに言う。好きな名言について書く。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート
3 学 期	1	9	Lesson 9 From Recycle to Upcycle	つなぎ表現、分詞構文「～するとき」、間接疑問文、現在完了進行形の用法を理解する。 ごみの再利用の新しい形「アップサイクル」について、それに対する様々な人の意見を理解し、話し合い、自分の考えを理由とともに言う。ゴミを減らすために気を付けていることを書く。	学年 末考 査 スピー キング テスト	学年 末考 査 スピー キング テスト	振り 返り シート スピー キング テスト
	2	10	Lesson 10 Diversity at Japanese Companies	仮定法過去、分詞構文「～して、そして」、過去の習慣(would)、助動詞+be+過去分詞の用法を理解する。 日本の社会における雇用の多様性、日本企業の様々な取り組み、求人広告の内容を理解し、話し合い、自分の考えを理由とともに言う。女性の就職状況について自分の考えを書く。	学年 末考 査 小テスト	学年 末考 査 小テスト	振り 返り シート
	3	9	Power Up Section	各レッスンについてさらに理解を深めるための文章を読み、より深い内容を学ぶ。	小テスト	小テスト	振り 返り シート

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・予習・復習を習慣づけよう。
- ・授業に集中しよう。
- ・ペアやグループ学習に積極的に参加しよう。
- ・文構造や文法事項を理解し、フレーズごとに前から後ろへ英文を理解できるようになろう。
- ・積極的に発表や質問をしよう。
- ・提出物は不備のないように仕上げ、期限をしっかりと守って提出しよう。

令和7年度 外国語科

科目名	論理・表現 I	学年	類型・コース	単位数
		1	全員	2
学習の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの3つの能力を養う。			
使用教材	教科書：「BIG DIPPER English Logic and Expression I」（数研出版） 副教材：「BIG DIPPER English Logic and Expression I レッスンノート」（数研出版） 「BIG DIPPER English Logic and Expression I ワークブック」（数研出版） 「BIG DIPPER 高校英語」（数研出版）			
評価	評価法	予習の状況、授業中の態度、小テスト、提出物等を加味し、定期考査を中心に、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度についての3つの観点から総合的に評価する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを伝えあったりするための基本的な語句や、論理の構成、展開を理解している。
		b	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることにむけた粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとしている。
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	6	Lesson 1～3 はじめに	中学校で学習した英文法を復習しながら、高校英文法の基礎となる項目を学習する。英文の作り方、動詞の種類、名詞・冠詞について学び、ライティング・スピーキングなどの自己表現活動につなげる。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート
	5	3	Lesson 4 My Friends	英語の基本語順を学ぶ。英語の語順を意識しながら、それぞれの品詞の役割やはたらきを理解し、肯定文・否定文・さまざまな疑問文や命令文、感嘆文を適切に作り、それに応答することができる。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート
		4	Lesson 5 My Family	現在形・過去形の概念を理解し、練習問題を通じて時制の動詞のパターンを定着させ、ライティング・スピーキングなどの自己表現活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート
	6	4	Lesson 6 Pastime	未来表現の概念を理解し、練習問題を通じて時制の動詞のパターンを定着させ、ライティング・スピーキングなどの自己表現活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート
		4	Lesson7 My Town	完了形の概念を理解し、練習問題を通じて時制の動詞のパターンを定着させ、ライティングなどの自己表現活動につなげる。	期末 考査 パフォーマ ンステスト (書く) 課 題 考査	期末 考査 パフォーマ ンステスト (書く) 課題 考査	振り 返り シート パフォーマ ンステスト (書く) 課題
	7 8	3	1学期の復習 夏休みの課題				

2 学 期	9	2	Lesson 8 Our Teachers	助動詞のそれぞれの意味や用法を学ぶ。文脈に応じた適切な助動詞の使い分けを学び、話す・書くというアウトプット活動につなげる。	中間 考查	中間 考查	振り 返り シート
		2	Lesson9 Visiting a Museum	助動詞のそれぞれの意味や用法を学ぶ。文脈に応じた適切な助動詞の使い分けを学び、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	中間 考查 小テスト	中間 考查 小テスト	振り 返り シート
		3	Lesson 10 Famous people	英語の5つの文型を学ぶ。文型を意識しながら、それぞれの品詞の役割やはたらきを学び、話す・書くというアウトプット活動につなげる。	中間 考查 小テスト	中間 考查 小テスト	振り 返り シート
	10	4	Lesson 11 Reading	受動態の意味や用法を学ぶ。助動詞、進行形や完了形と複合されたパターン、注意すべき受動態の用法についても学ぶ。学んだ表現を使って、話す・書くというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
		2	Lesson 12 Studying Abroad	不定詞の基本用法の使い方を学び、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
		2	Lesson 13 Advice	不定詞の意味上の主語、原形不定詞の理解・練習を行う。さらに、不定詞の重要表現について学ぶ。学んだ用法を基に、話す・書くというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
	11	4	Lesson 14 Hobbies	動名詞の主語や補語、目的語としての使い方を学ぶ。学んだ動名詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 小テスト	期末 考查 小テスト	振り 返り シート
		4	Lesson 15 My Vacation	現在分詞と過去分詞の違い、分詞の形容詞に近い使い方を学ぶ。さらに補語になる用法や分詞構文について学ぶ。学んだ分詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考查 ハ°フォーマ ンステスト (書く・ 話す) 課題 考查	期末 考查 ハ°フォーマ ンステスト (書く・ 話す) 課題 考查	振り 返り シート ハ°フォーマ ンステスト (書く・ 話す) 課題
	12	2	冬休みの課題				
3 学 期	1	3	Lesson 16 In a Zoo	動詞の比較変化、原級・比較級の基本用法について学ぶ。学んだ比較級の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	学年末 考查	学年末 考查	振り 返り シート
		3	Lesson 17 Out team	比較の慣用表現、最上級の意味を表す表現について学ぶ。学んだ比較の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	学年末 考查 小テスト	学年末 考查 小テスト	振り 返り シート
	2	4	Lesson 18 Neighbors	関係代名詞の基本用法(限定用法)について学ぶ。名詞に説明を加える概念について学ぶ。非制限用法について学ぶ。また、関係代名詞 what について学ぶ。学んだ関係代名詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	学年末 考查 小テスト	学年末 考查 小テスト	振り 返り シート
		4	Lesson 19 Speeches	関係代名詞 what 、関係代名詞の継続用法(非制限用法)、関係副詞、関係副詞の継続用法(非制限用法)について学ぶ。学んだ関係詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	学年末 考查 小テスト	学年末 考查 小テスト	振り 返り シート
	3	4	Lesson 20 My Wish	仮定法過去・仮定法過去完了・願望を表す用法、仮定法の重要表現、if 節の代わりになる表現について学ぶ。学んだ仮定法の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	学年末 考查 小テスト	学年末 考查 小テスト	振り 返り シート
		3	Lesson 21 A Birthday Gift	等位接続詞、名詞節を導く接続詞、副詞節を導く接続詞の用法について学ぶ。学んだ接続詞の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	ハ°フォーマ ンステスト (書く・ 話す)	ハ°フォーマ ンステスト (書く・ 話す)	振り 返り シート

担当者からのメッセージ (学習方法など)

- ・予習・復習を習慣づけよう。
- ・音読を入れよう。
- ・積極的に発表や質問をしよう。
- ・仲間と共に課題を解決しよう。
- ・提出物は期限を守って提出しよう。

令和7年度 情報科

科目名	情報Ⅰ		学年	類型・コース	単位数
			1	全員	2
学習の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力の習得を目指す。				
使用教材	教科書：高等学校 情報Ⅰ（数研出版） 副教材：プログラミング入門 Excel VBA 編（数研出版） Word Excel PowerPoint の基本操作 Office2016（東京書籍）				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題プリントやレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。	
		b	思考・判断・表現	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	7	第1編 情報社会の問題解決	第1章 情報とメディア A 情報とは何か B 情報源と情報の検証 C 情報とメディアの特性 D 問題解決のプロセス Word実習	確認テスト	実習レポート	実習レポート 振り返りシート
	5	4		第2章 情報社会における法とセキュリティ A 情報社会と法規・制度 B 個人情報の適正な利活用と保護 C 知的財産権 D 情報セキュリティ E 情報セキュリティ対策のための技術 F 情報セキュリティ対策への意識			
	6	4		第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 A 情報技術の発展の光と影 B 情報技術の適切な活用			
	7	5	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用	第1章 ネットワークのしくみ A コンピュータネットワーク B 通信プロトコル C パケット通信 D 通信の信頼性 E IPアドレスとドメイン名 F WWWのしくみとURL G 電子メールの送受信のしくみ H 情報の暗号化	期末考査	期末考査	振り返りシート

2 学期	9	5	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用	第2章 データベース A データベース B さまざまな情報システム Excel実習	確認 テスト	実習 レポート	実習 レポート 振り 返し シート
		4		第3章 データの分析 A データのさまざまな形式 B データの収集方法 C データの種類と尺度水準 D データの分析 E テキストマイニング	確認 テスト		振り 返し シート
	10	3	第3編 コンピュータとプログラミング	第1章 コンピュータのしくみ A コンピュータの構成 B コンピュータのソフトウェア C コンピュータでの数値の内部表現	確認 テスト	実習 レポート	振り 返し シート
		5		第2章 プログラミング A アルゴリズム B プログラミング言語とは C プログラミングの方法 プログラミング実習	確認 テスト		実習 レポート 振り 返し シート
		3		第3章 モデル化とシミュレーション A モデル化 B シミュレーション	確認 テスト		振り 返し シート
	11	4	第2編 コミュニケーションと情報デザイン	第1章 情報のデジタル表現 A アナログとデジタル B デジタル情報の表現 C 文字のデジタル表現 D 音のデジタル表現 E 画像のデジタル表現 F 動画のデジタル表現 G データの圧縮	確認 テスト	期 末 考査	振り 返し シート
		3		第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 A 通信とその進展 B マスコミュニケーションの進展 C 情報の発信とメディアの性質	確認 テスト		振り 返し シート
		3		第3章 情報デザイン A 情報を表現する方法 B ユニバーサルデザイン	期 末 考査		振り 返し シート
	12	20		第4章 プレゼンテーション A プレゼンテーションとは B プレゼンテーションの流れと注意点 PowerPoint実習		実習 レポート 発表	実習 レポート 発表
		1					
		2					
3 学期	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・受け身でなく、積極的な気持ちで授業に臨みましょう。
- ・座学ではプリントを使って授業を進めます。プリントにしっかり要点をまとめましょう。
- ・期末考査は、教科書・プリント・副教材を中心に、授業全般にわたって出題します。
- ・実習については、基本的に授業時間内のみで作品を完成させ、提出してもらいます。与えられた時間を有効に利用しましょう。
- ・授業での学習活動の取り組み状況も振り返りシートなどを用いて評価します。